

夫の死をきっかけに発覚した女性の存在。  
50年もの裏切りに心乱され……

相談者

大阪府・67歳・アルバイト



単身赴任生活を送っていた夫（69歳）が急病で入院したとき、夫の携帯電話に頻繁に電話がかかってきていたのが気になっていました。ふだん夫の行動を事細かにチェックしない私でも、相手が私に知られては困る女性だということ

はわかります。でも病に苦しむ夫の顔を見ていたら、相手について問いただすこともできません。結局、入院して4日後、夫は帰らぬ人になってしまいました。すべてが明らかになったのは、夫の死後のことでした。単身赴任

生活を送っていた部屋を片付ける  
と、女性からの手紙がたくさん出てきたのです。どうやら、夫が入院する直前までやりとりしていたよう。相手の名前には見覚えがありました。50年ほど前、私と夫が交際をスタートさせるときに、「高校の同級生で、卒業時に結婚を申し込んだけれど断られた」と話していた相手です。夫は大学の教員で、研究者。3つの国立大学に勤務し、海外に赴任していたこともあります。その女性はすべての大学宛てに、甘い恋心をささやく封書や手紙を大量に送っていたのです。

しかも、1日に1回は必ず電話をくれました。ハグをしたり、手をつないだり……。料理を作れば「美味しい」と言って完食。夫が学会に出席する際には、私も同行ワイフとしてスピーチをしたこともあります。なのに、なぜ……。私は、思いあまつて夫の高校時代の友人に連絡し、夫と女性の関係を聞きました。この女性は高校卒業後、就職し、職場の少し年上の男性と20歳で結婚したそうです。それなのに結婚後半年も経たないうちに、夫と肉体関係を持つようになったといいます。私と夫が出会ったのは、夫が21歳、私が18歳のとき。私たちは5年の交際期間を経て結婚したので、交際当初から私は裏切られていたことになりました。

夫の死をきっかけに知った女性の存在で、心に大きな穴がぼつかりと開いてしまい、埋めることができない日々を苦しんでいます。

あなたを一番愛していたからこそ  
女性との関係を必死で隠そうとした

回答者 志茂田景樹

作家



しもだ かげき 1940年静岡県生まれ。80年に『黄色い牙』で直木賞受賞。執筆活動のかたわら、絵本・児童書作家として創作を行い、「よい子に読み聞かせ隊」の隊長として、読み聞かせ活動にも力を入れている

▼ 幸せな日々は間違っていない

夫の突然の死だけでもショックなのに、50年近くにもおよぶ裏切りを知り、愕然となさったことでしょう。夫を責めたくとも、この世にいないので、気持ちの持っていき場がありませんね。

相談者の方は団塊世代。この世代の男性は仕事一筋、女性はその夫を支えるべく専業主婦となる人が多かった。家のことも、子育てもしつかり。そして夫婦仲よく、堅実な家庭を作ることこそ幸せ、という世代です。相談者の方も、妻として、母として一所懸命に頑張り、幸福を享受していたのでしょう。

それが女性の存在を知り、幸せだと思っていた日々が根底からひっくり返されたようになってしまった。自分の存在意義にも疑問を持つてしまったかもしれない。夫への信頼が強かっただけに、裏切られたという思いは強いでしょう。

でも、相談者がまったく気づかな

かったということは、夫は必死で裏切りを隠してきたんですよね。それこそ、女性からの手紙を処分する時間もないまま、入院後たった4日で亡くなるという突然の出来事さえなければ、永遠に明らかにならなかつたかもしれません。

では、なぜ夫は一所懸命隠したのか。それは妻、つまり相談者の方との関係、そして家庭を決して壊したくなかったからです。夫にとって、あなたは一番大切な人だった。幸せな日々は間違いではなかったのです。そのことを、まずわかってほしいと思います。

とはいえ、それでも納得できないのは当然のこと。50年近くという二人の関係の長さを思い、自分たちが知り合う前、結婚後のことなど、夫とその女性とのあれこれを妄想しては、「考えたくない、でも……」と、葛藤の日々が続いているのでしょう。でも、男女というものは、結婚しなければ、10年程度しか気持ちが続かないもの。10年を過ぎたら惰性で

あり、断ち切ることでできなかつた腐れ縁です。夫と相手の女性も、そうだったのかもしれませんが。そんな二人の関係を、あれこれ妄想する価値はないのです。

▼ 遠慮せず、人生を謳歌して

今はまだ、ショックから立ち直れなくても仕方がありません。でも、その女性の存在を知ったからこそ、夫の死から早く立ち直ることができるとは思いません。私は思いますが、

単身赴任をしながらも、家族の待つ家にできるだけ帰ろうとする。1日に1回電話をし、妻の料理をいつも褒め、仕事の場ではワイフとして華やかな場に立たせてくれた……。

そんな素晴らしい夫に先立たれたら、相談者の今の思いとは逆の意味で気落ちし、それこそ大きな喪失感に襲われ、なかなか立ち直れないはずです。仲のよかつた夫婦ほど、残されたほうはショックが大きく、いつまでも悲嘆にくれるとよく言うでしょう。そうならないように、神様

がわざと夫の真実の姿を見せてくれたのかもしれませんが。

だから、失われた50年あまりの時間を取り戻してやる、くらいの気持ちで、これからの人生を大いに謳歌してください。自分を長年裏切った夫です。遠慮はいりません。「自分だけがこんなに、楽しい思いをしていいのかわからない」なんて後ろめたさを感じることなく、旅行をしたり、趣味に打ち込んで豊かな時間をすごしてください。

もちろん、それで裏切りにより負った深い傷が消えることはないでしょう。でも、60代はまだまだ若い。なんだってできますよ。恋をして、新たな伴侶を得ることだってあるかもしれないし、これまでできなかったことにチャレンジしたり、好きな道が極めたり、思ってもみなかった人生が展開するかもしれません。いつとき落ち込んだら、人生を大いに楽しむことに、没頭しましょう。そうするうちに、ぼっかり開いた穴も、埋まっているはずですよ。